
ハートキャッチプリキュア & 仮面ライダー龍騎 鏡の騎士と伝説の戦士

TH

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハートキャッチプリキュア&仮面ライダー龍騎 鏡の騎士と伝説の戦士

【Nコード】

N8600Y

【作者名】

TH

【あらすじ】

明堂院学園中等部に転校してきた少年・『桐原翼』。転校して運命の再会と出会い、そして鏡の世界・『ミラーワールド』の戦いを巻き込まれていく。4人の伝説の戦士と出会いと砂漠の使徒と13人のライダー、2つの戦いに巻き込まれる。

登場人物

登場人物

桐原翼／仮面ライダー龍騎

札幌から引越してきた明堂院学園中等部2年。つぼみの幼馴染。正義感が強い心やさしい性格。特につぼみには甘い。偶然恭介が落としたカードデッキを拾いひょんなことから鏡の世界・『ミラーワールド』に来てしまい、仮面ライダーになった。龍のモンスター・『ドラッグレッダー』と契約し、『仮面ライダー龍騎』として、そしてライダー同士の戦いを止めるために戦う。

日暮京／仮面ライダーリュウガ

翼と同じく転校してきた明堂院学園2年。大らかで前向きな性格。将来の夢はファッションデザイナーになる事。同じファッションデザイナーに目指しているえりかと意気投合する。ミラーワールドから出てきた『ミラーモンスター』を見てしまい、戦いに巻き込んだ。『ドラッグブラッカー』と契約し、『仮面ライダーリュウガ』として戦う

草薙夕輝／仮面ライダーゾルダ

明堂院学園2年。1年前に入院していたが、今年になって退院した。いつきの幼馴染。正々堂々とした性格で曲った事は毛嫌いしている。京同様、『ミラーモンスター』を見てしまい、戦いに巻き込んだ。

『マグナギガ』と契約し、『仮面ライダーゾルダ』として戦う。

八神恭介／仮面ライダーナイト

明堂院学園高等部2年。ゆりの幼馴染。翼達がライダーになる前から仮面ライダーとして戦っていた。砂漠の使徒と父の仇の『仮面ライダーオーデイン』を倒すのが目的であったが、ゆりと再会し、これ以上の悲しみを味あわせないため、大切な人たちを守るため『仮面ライダーナイト』として戦う。最初は自分が龍騎になるうともう一つのデッキを持ち、ドラッグレッダーを探していた。

プロローグ（前書き）

少し短いです

プロローグ

明堂院学園

そこに一人の少年が校門の前に立っていた。

？「ここが明堂院学園か……」

少年の名前は『桐原翼』。今日から明堂院学園の生徒になるのだ。

翼「友達作れるかな……なんか妙に緊張するな……」

翼がそう考えていたら誰かとぶつかった。

翼「うわ！」

？「きゃ！」

翼とぶつかったのは髪を両方結んでいて、眼鏡を掛けている少女だ。

翼「あつ、ごめん！大丈夫？」

翼は先に立ち上がり少女に手を差し出した。

？「あつ、はい大丈夫です！」

少女は翼の手を掴み、立ちあがった。

翼（あれ？この娘、どこかで……）

？「どうかしましたか？」

翼「あ、いやなんでもないよ。じゃあね」

翼は少女を後にし、校舎へと向かった。

少女（あの人、どこかであつたような……）

翼はまだ気づいていなかった。これは「出会い」ではなく「再会」
だと言っ事を

第1話 友達

翼「校舎に入っただのはいいけど…職員室何処だろ……」

翼はいま、道に迷っていた。最初は間違えて高等部に行ってしまう、偶然翼を見た、眼鏡をかけたロングヘアーの女子生徒と青髪の女子生徒にここは中等部じゃないと教えてもらいなんとか中等部に来た。

翼「どこにあるんだろ…？あの人に聞いてみるか」

翼は偶然見つけた男子生徒を声をかけた。

翼「あのすいません。」

翼に声を掛けられた男子生徒は翼の方に振り向いた。

？「どうしたの？」

翼「職員室何処ですか？俺今日からここに転入してきたんでよく分かんなくなつて」

？「俺も職員室に用があるんだ。一緒に行こうか？」

翼「あ、お願いします」

？「俺、『草薙夕輝』。君は？」

？「俺は『桐原翼』。今年ここに転校して、2年生です」

夕輝「2年？じゃあ俺と同じ学年だね」

翼「えっ？2年だったの？」

夕輝「ああ。ここで会ったのは何かの縁だ。良かったらさ俺と友達にならない？」

翼「えっ！？いいの？ありがとう！ええと…」

夕輝「夕輝でいいよ。」

翼「わかった。じゃあおれも翼でいいよ」

夕輝「じゃあ、改めてよろしくな翼。」

翼「ああ。こちらこそよろしく」

2人は職員室に向かった。途中誰かが声を掛けてきた。

？「なあ、職員室何処か教えてくんねえか？」

2人は声の主に振り向くと居たのは、ブレザーを着ている男子生徒だ。2人はすぐにこの人は転校生だと分かった。

夕輝「転校生？」

？「ああ。俺、『日暮京』。よろしくな！」

夕輝「俺は草薙夕輝。夕輝いいよ」

翼「あ、俺は桐原翼。よろしくね」

こうして翼は転校初日から友達が2人も出来た。それがこれから来る試練を共に乗り越える者同士だと言うことも知らずに

第2話 再会

第2話 再会

翼、京、夕輝「失礼しました」

翼と京、夕輝は職員室から出て、校長先生に挨拶して、職員室に出た。

翼「はあ、なんかちょっとホッとした気分だよ。」

京「なあ、夕輝。さっき先生達お前を見て驚いていた人がいたけどなんでだ？」

夕輝「俺は元々この学校の生徒なんだ。去年ちょっと入院してて今年になって退院したんだ」

翼「え、入院してたの？」

夕輝「ああ。入院ライフ経験者として言うけど入院している時ってものすごく暇だからね」

翼「やっぱり、入院中は暇なんだ」

それからしばらく3人は会話している最中に誰かが声を掛けてきた。「君たちもしかして転校生？」

翼と京は後ろを向くとそこに居たのはショートヘアで白い制服を着ている生徒と青髪でセミロングの女子生徒だ。

夕輝「俺は転校生じゃないけどね」

夕輝はそう言いながら2人に振り向いた。夕輝を見て2人は驚いた表情になった。

「えー！もしかして夕輝君！？」

「退院してたの！？」

夕輝「ああ。2か月前に退院して、一昨日帰国したんだ」

翼「夕輝、この娘達は？」

夕輝「ん？ああごめん。紹介するよ。この娘は幼馴染の『明堂院いつき』でこっちは『来海えりか』だよ」

いつき「夕輝の幼馴染の明堂院いつきです。よろくね」

えりか「来海えりかだよ！よろしくね！」

いつきは礼儀正しく挨拶し、えりかは元気よく挨拶した。

翼「俺は桐原翼。よろしく。」

京「俺は日暮京だ。よろしくな！そして夢はファッションデザイナー
ーだぜ！」

京の言葉を聞いたえりかは即座に反応した。

えりか「ファッションデザイナー！？ファッションデザイナー目指
してるの！？」

京「そうだぜ。」

翼「どうしたの？急に」

夕輝「えりかはこの学校のファッション部の部長なんだ」

京「ファッション部なんてあるのか？じゃあ放課後、来てもいいか
？」

えりか「もちろん！入部大歓迎だよ！」

翼（今日一日で友達4人も出来たよ…この学校やっていけそうだな）
少しだけ会話をしていた5人。その途中夕輝が時計を見るとそろそ
ろ授業の時間だった。

夕輝「あ、もうそろそろ時間だな。じゃあいつき、えりか後でね」
いつき「うん」

えりか「京君！放課後、待ってるね！」

京「おお！」

夕輝「じゃあいつき。またな」

いつき「うん」

翼達はそれぞれの教室へと移動した。

京「じゃあ、俺こっちのクラスだから。じゃあな」

翼「う、うん…」

京と別れた翼は少し心細かった。

翼（はあ…どうしよう…誰か知り合いがいてくれたらな…）

翼が入っている教室は今ホームルームの真っ最中だった。

先生「それから、今日からこのクラスに転入性が入ります。どう

ぞ」

翼「とうとう来たか…」

緊張しながら教室のドアを開けた翼は先生の所まで行き自己紹介した。

翼「今日からこの学校に転校することになりました、桐原翼です。よろしくお願いします」

翼が自己紹介終わると一人の女子生徒があわただしく立ちあがった。

「翼君!？」

翼は女子生徒の方を向いた。翼は今立っている女子生徒に見覚えがあった。結び髪で眼鏡を掛けている少女だ。

翼「つぼみ!？」

えりか「あれ?つぼみ、翼君のこと知ってるの?」

つぼみ「はい。私の幼馴染です。」

えりか「えー!幼馴染だったのー!？」

翼は嬉しくって思わずつぼみの方に行った。

翼「久しぶりだね!元気だった?」

つぼみ「はい!翼君もお元気そうで!」

えりか「ねえねえ。翼君お取り込み中悪いけど、翼君の席はあつちだよ」

翼「あつ、そうだった。ありがとう」

翼はえりかが言われた席へ座った。その同時にさっきまでの不安感が一気になくなった。

第3話 鏡の世界・『ミラーワールド』（前書き）

いよいよ翼はミラーワールドに入ります。

第3話 鏡の世界・『ミラーワールド』

学校が終わり翼とつぼみは2人で下校していた。所がつぼみは翼に『植物園に来てほしい』と言われ、翼は植物園に向かっていた。

翼「それにしても驚いたな。まさかまたつぼみと会えるなんて。」

つぼみ「私もですよ。転校生が翼君だったからビックリしました」

翼「ホントだね。でもまたつぼみに会えて凄くうれしいよ」

つぼみ「私もです！あ、着きましたよ」

2人は植物園に着き、植物園の中に入った。

翼「うわー、花がいっぱいあるね。つぼみは今でも花の科学者を目指してるの？」

つぼみ「はい。花は人を幸せにする物。だから砂漠になっている世界を花を咲かせたいです」

翼「つぼみならきつとなれるよ。ん？」

翼は別の花壇いる男性と女性に目に入った。翼は男性は見覚えはなかったが女性の方は見覚えがあった。学校で校舎を教えた人だった。

つぼみ「翼君どうしたんですか？」

翼「ああ。あの人、俺が迷っている時に校舎を教えてくれた人なんだ。あ、そういえば礼を言い忘れてたんだ。ちよつとあの人と話してくるね」

つぼみ「あ、翼君待つて下さい」

翼は眼鏡の女性のいるところへ歩いて行った。つぼみも翼の後に続いた。

翼「あのすいません」

「あら、あなたは確か今朝の」

翼「桐原翼です。あの時校舎を教えてくれてありがとうございます。」

「ゆり」どういたしまして。」

つぼみ「ゆりさんこんにちは」

「こんにちは。きょうはえりか達はいないのね」

つぼみ「はいえりかはちよつと転校生と一緒にファッション部いていつきは幼馴染と一緒に道場に行ってます。」

翼「え？つぼみこの人と知り合いなの？」

つぼみ「はい。時々この植物園に来ています。紹介しますね。明堂学院学園高等部2年の『月影ゆり』さんです」

ゆり「月影ゆりよ。よろしくね」

翼「あ、はい。よろしくお願いします。」

「ゆり。知り合いか？」

ゆりの後ろに一緒にいた男子高生が声を掛けてきた。

つぼみ「ゆりさん。この人は？」

ゆり「紹介するわ。彼は私の幼馴染の」

「『八神恭介』だ。」

つぼみ「ゆ、ゆりさんの幼馴染ですか!？」

ゆり「そんなに驚くこと？」

つぼみ「い、いえ！すいません」

翼（なんかクールだなこの人…）

翼はそう思っていたながらゆりと恭介を見ていると、恭介は突然あたりを見回し始めた。それを不思議に思った翼は恭介に声をかけた。

翼「あの、恭介さん。どうしたんですか？」

恭介「いや。なんでもない。ゆり、ちよつと急用思ひ出したから、俺は失礼するよ。」

ゆり「……わかったわ」

恭介はゆり達を後にし、外へ出た。

つぼみ「何かあったんでしょうか？」

翼「さあ。ん？」

翼は恭介が立っていた場所に黒いケースが落ちているのを気付いた。翼「なんだろこれ？」

翼は黒いケースを拾った同時に何処からか妙な音が鳴り始めた。

キイイイイン

翼（何だこの音…どこから？）

つぼみ「翼君どうしたんですか？」

翼「ごめん。ちよつと行つてくる！」

翼は音の場所を探る為に外に出た。

つぼみ「え、ちよつと翼君！」

翼は植物園から出て、音が鳴っているところを探した。しかし何処も音が鳴っている場所らしきものはなかった。

翼（どこだ…何処から音が…）

翼は探しまわっていると首から妙な感触を感じた。翼は首を触ると首に糸を巻かれていた。そして後ろを向くと糸が出ている場所は鏡の中からだった。

翼「鏡に！？」

すると糸は翼に鏡の中に引つ張り、翼は鏡の中に入った。

翼「うわああああああ！」

翼は鏡の中から飛ばされその拍子で倒れた。

翼「いて…ここは…あれ？いつもと同じだ。」

翼はあたりを見回すと何かが違った。つぼみの家のフラワーショップの看板の字が左方向だった。

翼「どうなってるんだ？」

すると

「キシヤアア」

突然何かの呻き声が聞こえ翼は振り向くと、そこに蜘蛛姿をした怪物が現れた。翼は怪物の姿を見て、恐怖を感じ、腰を抜かしてしまった。

翼（逃げなきゃ…でも、足が…動かない…）

蜘蛛の怪物は翼を近づき、口を大きく開けた。翼は死の覚悟をし、眼を閉じたその時だった。

ガキン！

翼の前に金属音が鳴り翼は眼を開けた。翼の前に居たのは紺色の騎

士が立っていた。

第4話 紺色の騎士（前書き）

今回は長いです。あと、翼が変身するのは龍騎ブランク体です。

第4話 紺色の騎士

（何だあれ？紺色の…騎士？）

「大丈夫か？」

「え？」

「大丈夫なのかって聞いてるんだ」

「あ、はい」

「そうか」

紺色の騎士は蜘蛛の怪物を向き、コウモリの模様の剣の開き、ベルトから一枚のカードを出しそれを剣に入れた。

『ソードベント』

剣から音声が鳴ると紺色の騎士の手に大きな槍が現れた。紺色の騎士はそれを使って怪物と戦い始めた。

「お前、しばらく大人しくしてろ」

紺色の騎士は槍で怪物を刺し、動けなくした。

「グギヤアアア…！」

怪物は動こうとしたが槍は深く差しているため動けなくなっていた。

「これで話せるな。おい、お前」

「はい？」

「おまえ、『アドベントデッキ』を持つてるのか？」

「『アドベントデッキ』？なんですかそれ？」

「さっき俺が落とした物だ。植物園で黒いケースが落ちてあったろ？」

「植物園？あ、もしかして恭介さんですか！？」

「ああ。それで持っているのか？今俺が付いている奴と同じ形をしている奴だ。」

「え…と、あ、あつた」

翼はポケットに入れてあったデッキを出し、恭介に見せた。

「持ってたか。お前運がいいな。それを使って変身しろ。」

「変身？どうやって？」

「デッキを向けるようにするんだ。それと早くしろ。あいつがもうすぐしたら立ち上がる。」

翼は恭介の言うとおりにデッキを向けるように出した。するとどこからかベルトが現れ、翼の腰に装着した。そして持って合ったデッキをベルトに装填した。すると、翼の周りに騎士の残像が現れ、翼と重なると、翼の姿が黒い騎士の姿になった。

「よし。変身したな。」

「で、その後どうするんですか？」

「そのままいろ。」

「ええ！？それじゃあ、変身の意味がないじゃないですか！？」

「その状態では無理だ。ブランク体は弱すぎる。」

恭介は翼を後にし、蜘蛛の怪物とまた闘い始めた。

（引っ込んでろって言われても…少しでも良いからあの人の力になるう。）

翼はデッキから一枚のカードを取り出し、左腕に装着しているガンレットに入れた。

『ソードベント』

ガンレットから音声が鳴ると、空から細長い剣が落ちてきて、地面に指した。

「うわ…何所から来たんだ？」

翼は少し戸惑いながら剣を取った。

「でも、これであいつを…うおおおおおおおお！」

翼は剣を構え、まっすぐ恭介を通りすぎ、怪物へと向かった。

「待てお前！」

恭介が止める前に翼は剣で怪物を斬った。

バキィ！

しかし斬ったのは怪物ではなく翼が持ってた剣だった。

「ええええ！？折れたーーーー！！」

恭介は翼の肩を鷲掴みにし、強引に後ろへ引っ張った。

「うわ！」

「下がってろって言っただろ！」

「でも…ちょっと役に立とうと…」

「その状態は弱いつて言っただろ！！もういい！後で話ししてやる」

恭介はまたデッキからカードを出し、剣に入れた。

『ファイナルベント』

音声が鳴ると何所からか巨大なコウモリが現れた。コウモリは恭介に近づくとコウモリはマントに変形した。

「はっ！」

恭介はジャンプするとマントは全身に包み、ドリル状の回転をし始め、蜘蛛の怪物に向かった。

「くらえ！飛翔斬！！」

蜘蛛の怪物は逃げようとしたが、スレ以上にスピードが速く、飛翔斬を直撃した。飛翔斬を直撃した蜘蛛の怪物は爆破した。

ドーン！

「す…すごい…」

「ふう…まさかここにも『ミラーモンスター』現れるとはな」

「あの…恭介さん。さっきの怪物はいったんなんですか？」

「あれはな…！危ない！！」

恭介は何かを感じたのか翼を押した。その同時に2人の間に火球が地面に爆発した。

「こ、今度は何！？」

「とうとう現われたか…龍のモンスター・『ドラッグレッダー』！」

翼は恭介が空を見ていたのを気付き、翼も上を見た。すると空にいたのは巨大な赤い龍がだった。

「なんだ…あの赤い龍…」

第4話 紺色の騎士（後書き）

ついにドラッグレッダーの登場です！もうすぐ契約をします！お楽しみ！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8600y/>

ハートキャッチプリキュア&仮面ライダー龍騎 鏡の騎士と伝説の戦士

2011年12月1日23時45分発行